

第 33 回電波功績賞表彰式を開催

2022年6月28日（火）、第12回定時総会に引き続き、第33回電波功績賞表彰式が開催されました。まず、渡辺総務大臣政務官からご祝辞を頂戴し、その後、竹内総務審議官から総務大臣表彰の受賞者の方々に表彰状が授与されました。ついで、当会の遠藤会長から一般社団法人電波産業会会長表彰の受賞者の方々に表彰状が贈呈されました。

表彰状受領後、受賞者を代表して小林様（株式会社NTTドコモ 常務執行役員）よりご挨拶がありました。



電波功績賞表彰式終了後の記念撮影

後列 表様 長岡様 野口様 富田様 高木様 中尾様 永井様 北沢様 矢野様 阪口様

前列左端より 竹村総合通信基盤局長 小林様 要海様 関和様 藤井様 原田様 羽鳥選考委員長 竹内総務審議官

遠藤会長 松村様 林様 下村様 澤井様 横山様 松崎様 豊嶋電波部長 前列右端より

1 総務大臣表彰

(1) 「5G SA 方式の開発とサービスの実用化」

株式会社 NTT ドコモ

代表 小林 宏 殿 (株式会社 NTT ドコモ 常務執行役員 ネットワーク本部 本部長)

KDDI 株式会社

代表 要海 敏和 殿 (KDDI 株式会社 執行役員常務
技術統括本部 モバイル技術本部 本部長)

ソフトバンク株式会社

代表 関和 智弘 殿 (ソフトバンク株式会社 常務執行役員 兼 CNO)

第 5 世代移動通信システム (5G) 専用のコアネットワーク設備と 5G 基地局とを組み合わせたスタンドアローン (SA) 方式の開発を進め、5G SA によるサービスを実用化し、さまざまな業種・業態におけるユーザの多様なニーズに応じたネットワークサービスを提供するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「2.3GHz 帯ダイナミック周波数共用システムの実証及び実用化」

国立大学法人電気通信大学

代表 藤井 威生 殿 (国立大学法人電気通信大学
先端ワイヤレス・コミュニケーション研究センター センター長)

国立大学法人京都大学

代表 原田 博司 殿 (国立大学法人京都大学 大学院情報学研究科 教授)

国立研究開発法人情報通信研究機構

代表 松村 武 殿 (国立研究開発法人情報通信研究機構 ネットワーク研究所
ワイヤレスネットワーク研究センター ワイヤレスシステム研究室 室長)

株式会社 KDDI 総合研究所

代表 林 高弘 殿 (株式会社 KDDI 総合研究所 無線部門
電波・周波数グループ グループリーダー)

株式会社三菱総合研究所

代表 下村 雅彦 殿 (株式会社三菱総合研究所 フロンティア・テクノロジー本部
主席研究員)

ソニーグループ株式会社

代表 澤井 亮 殿 (ソニーグループ株式会社 R&D センター Tokyo laboratory 22
担当部長 Distinguished Engineer、東京工業大学 特任准教授)

日本アイ・ビー・エム株式会社

代表 横山 仁 殿 (日本アイ・ビー・エム株式会社 IBM コンサルティング事業本部
官公庁デリバリー 第五開発部 課長)

2.3GHz 帯において、異なるシステム間で動的に周波数を共用するダイナミック周波数共用を実用化するため、移動通信システムと既存の無線システムの地理的、時間的な運用状況を考慮した動的な共用システムの研究開発と実証を行い、ステークホルダー間の調整を実施するとともに、システムの稼働開始を推進させるなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「ミリ波 8K ワイヤレスカメラシステムの研究開発」

日本放送協会 ミリ波 8K ワイヤレスカメラシステム研究開発グループ
代表 松崎 敬文 殿 (日本放送協会 放送技術研究所 伝送システム研究部)

8K 映像の移動中継を可能とするワイヤレスカメラを研究開発し、放送事業用無線伝送システムに割り当てられた 42GHz ミリ波帯電波を使用して、帯域幅 125MHz で 185Mbps の伝送容量を達成し、8K 映像をワイヤレスカメラから移動伝送できることを実証するとともに、ミリ波帯 4K・8K FPU・ワイヤレスカメラに関する ARIB 標準規格策定に貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

2 一般社団法人電波産業会会長表彰

(1) 「ITU-R で HAPS の「電波伝搬推定法」の国際標準化を達成」

ソフトバンク株式会社 HAPS 電波伝搬モデル国際標準化チーム
代表 表 英毅 殿 (ソフトバンク株式会社 基盤技術研究室 新技術研究開発部 部長)

「干渉検討用電波伝搬推定法」と「システムデザイン用電波伝搬推定法」で構成されている HAPS 向けの「電波伝搬推定法」を開発するため、模擬成層圏環境及び海外での成層圏環境における電波伝搬測定を実施し、測定解析結果に基づく高精度な「電波伝搬推定法」を開発するとともに、ITU-R 勧告の発行に寄与し、HAPS の世界展開促進に貢献するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(2) 「国際標準小児数値人体モデルの開発による電波防護国際ガイドライン改定への貢献」

長岡 智明 殿 (国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所
電磁波標準研究センター 電磁環境研究室 主任研究員)
渡邊 聡一 殿 (国立研究開発法人情報通信研究機構 電磁波研究所
電磁波標準研究センター 電磁環境研究室 室長)

電波吸収特性評価が可能な、標準的な体形および臓器重量を有する小児数値人体モデルを開発し、これらのモデルを用いて小児の電波吸収量を精密に計算することで、小児に対して問題視されていた従来の電波防護レベルが妥当であることを明らかにし、2020 年に改定された電波防護の国際ガイドラインを通じて、通信事業や電波防護政策に対して重要な指針を与えるなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(3) 「インフラシェアリングの実用化」

KDDI 株式会社 5G 共同構築プロジェクトチーム

代表 野口 孝幸 殿 (KDDI 株式会社 技術企画本部 5G 基盤計画室 室長)

ソフトバンク株式会社 5G 共同構築プロジェクトチーム

代表 富田 弘樹 殿 (ソフトバンク株式会社 モバイルネットワーク本部
ネットワーク企画統括部 5G 基盤企画部 部長)

5G ネットワークの全国整備にあたって、28GHz 帯や 3.7GHz 帯のような高い周波数帯には基地局数が膨大になるという課題があり、5G ネットワークの早期整備を実現するため、両社が保有する基地局資産を効率的に相互利用するインフラシェアリングを推進することとし、共同実証を経て 2021 年 3 月より順次相互利用の商用基地局を展開するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(4) 「VHF 帯加入者系無線システムの実用化」

日本電信電話株式会社

代表 福園 隼人 殿 (日本電信電話株式会社 アクセスサービスシステム研究所
レジリエント無線グループ 主任研究員)

東日本電信電話株式会社

代表 高木 正昭 殿 (東日本電信電話株式会社 ネットワーク事業推進本部
設備企画部 無線ビジネス推進 PT 担当課長)

株式会社 NTT フィールドテクノ

代表 中尾 良輔 殿 (株式会社 NTT フィールドテクノ サービスエンジニアリング部
アクセス設備部門 アクセスデザインセンタ 計画設計担当
第三グループ 担当課長)

有線設備の敷設が困難な山岳・離島などに対して、加入電話、公衆電話などのユニバーサルサービスを提供する VHF 帯加入者系無線システムをデジタル化により高度化することで、周波数利用効率を向上させるとともに、高品質で安定した無線通信サービスの提供を実現するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(5) 「Sub-1 GHz 帯の周波数共用に関する IEEE 802.19.3 標準化推進と策定」

三菱電機株式会社

代表 永井 幸政 殿 (三菱電機株式会社 情報技術総合研究所 情報ネットワーク
システム技術部 インフラネットワーク技術グループ グループマネージャー)

Mitsubishi Electric Research Laboratories

代表 Guo Jianlin 殿 (Mitsubishi Electric Research Laboratories Connectivity
and Information Processing Team Senior Principal Research Scientist)

国立大学法人室蘭工業大学

代表 北沢 祥一 殿 (国立大学法人室蘭工業大学 大学院工学研究科 教授)

株式会社国際電気通信基礎技術研究所

代表 矢野 一人 殿 (株式会社国際電気通信基礎技術研究所
波動工学研究所 無線方式研究室 室長)

Sub-1 GHz 帯の複数の通信方式間での周波数共用を進めるために、ネットワークシミュレータ、周波数共用技術を開発し、スマートメーター等に使用される IEEE 802.15.4g 等と無線 LAN システムの拡張となる IEEE 802.11ah / Wi-Fi HaLow との周波数共用を検討し、IEEE の標準化活動を主導するとともに、周波数共用に関する標準規格 IEEE 802.19.3 の策定を達成するなど、電波の有効利用に大きく貢献した。

(6) 「EWBS 現地適合化ソリューションの考案開発など地デジ日本方式 (ISDB-T) の海外普及に貢献」

阪口 安司 殿 (一般財団法人海外通信・放送コンサルティング協力 放送技術部長)

地デジ ISDB-T 海外普及支援 (DiBEG 活動) に長期間最前線で取り組み中南米における ISDB-T 実用化普及に大きく貢献するとともに、EWBS (緊急警報放送) について、現地の要求条件に適合させたソリューションを考案、国内メーカーと協力して標準化、技術開発を主導し、現地での実証実験等の導入支援を行い、日本の協力に対して高い評価を得るなど、電波の有効利用に大きく貢献した。



表彰式における
遠藤会長の挨拶



表彰式における
渡辺総務大臣政務官のご祝辞



表彰式における
羽鳥選考委員長のご挨拶



受賞者を代表して
小林 宏様のご挨拶